この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

no.58

関前五丁目付近にて

この作品は、昨年の秋に前方に独歩の森を望みながら描いたものである。

絵を描いている時、頭上を飛んでいるカラスを見て、ふと子どもの頃に抱いていた疑問、「なぜカラスは鳥なのに、漢字で烏と書くのだろう？」というのを思い出した。

後で知ったことだが、鳥という文字は鳥の姿を基に生まれた象形文字だが、カラスは頭部まで真っ黒なので、瞳のありかがはっきりせず、瞳に当たる「一」の部分を省略して、烏になったことを学んだ。

一般に、カラスは路上の生ごみなどをあさる嫌われものだが、かなり頭の良い鳥だと思っている。先日テレビで、カラスがクルミを路上に置いて車にひかせて割らせたり、滑り台を子どもの真似をして滑り降りるのを見て、カラスの賢さやユーモラスな一面を知り、認識を新たにした次第である。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすかかずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。